第１９期日本学術会議「子どものこころ特別委員会」

報告書

子どものこころを考える
―我が国の健全な発展のために―

平成１７年６月２３日

子どものこころ特別委員会

本報告書は、第１９期日本学術会議「子どものこころ特別委員会」の審議結果をとりまとめ、発表するものである。

子どものこころ特別委員会委員

田中敏隆（委員長）	第１部会員、大阪城南女子短期大学大学設置準備室長 大阪教育大学名誉教授、神戸女子大学名誉教授（故人）
松原達哉（幹事）	第１部会員、立正大学心理学部臨床心理学科教授
金澤一郎（幹事）	第７部会員、国立精神・神経センター総長、 東京大学名誉教授
佐藤　学	第１部会員、東京大学大学院教育学研究科研究科長
岩井宜子	第２部会員、専修大学法科大学院副院長・教授
野上修市	第２部会員、明治大学法学部法科大学院教授
亀井昭宏	第３部会員、早稲田大学商学部教授
堀内昭義	第３部会員、中央大学総合政策学部教授
上野健爾	第４部会員、京都大学大学院理学研究科教授
木村捨雄	第４部会員、名城大学大学院総合学術研究科教授
久保田弘敏	第５部会員、東京都立科学技術大学客員教授、 東京大学名誉教授
江澤郁子	第６部会員、戸板女子短期大学学長、 日本女子大学名誉教授
鈴木和夫	第６部会員、日本大学生物資源科学部教授
松田一郎	第７部会員、北海道医療大学副学長

協力者

鴨下重彦	第７部部会長、賛育会病院院長、東京大学名誉教授、 国立国際医療センター名誉総長
江原由美子	第１部会員、首都大学東京都市教養学部教授
仙田　満	東京工業大学工学系大学院建築学科教授、 日本建築学会前会長
藤田善正	守口市教育委員会人権教育課長
田中英高	大阪医科大学小児科助教授
張　日昇	北京師範大学発展心理研究所教授
米谷光弘	西南学院大学文学部児童教育学科教授
小林芳郎	関西福祉学大学心理学教授
新井邦二郎	筑波大学大学院心理学系教授
内山伊知郎	同志社大学文学部心理学教授

要　旨

1　報告書の名称

第19期日本学術会議「子どものこころ」特別委員会報告書

子どものこころを考える－我が国の健全な発展のために－

2　報告書の内容

（1）作成の背景

少子化が恐ろしいばかりに進行し、親の役割が変貌し、住居も学校も急速に変貌しつつある。このような環境の中で生きている子どもたちの「こころ」は計り知れぬものの、凶悪な犯罪に手を染める幼い子どもがあまりに多いことにただ呆然とする。この子どもたちも、両親や教師が育てた子どもなのである。そこで、子どもを取り巻く社会的な諸問題を、ただそれを見るだけではなく、その遠因を考えながら多角的な考察を加え、具体的な対策を示すことにより子どもの健全な成長に資することにした。

（2）現状と問題点

脳の発達の観点からは、良い環境で「臨界期」を過ごさせることができるかが問題である。親子関係では、両親がそれぞれの役割を果たしつつ、子どもとコミュニケーションを維持しているかが問題である。家庭では、朝食を含む食生活リズムや、近所の人々とのコミュニケーションを大切にできる住居環境などを維持できているか否かが問題となろう。学校では、学びを忘れ、学びから逃げる子どもたちが急増しているし、親からの厳しい要求も相まって教師も自信を失っている現状があろう。社会的には、子どもの活動の場が失われているし、社会的にも十分守られているか否かは問題であろう。

（3）改善策、提言等の内容

①乳幼児のテレビなどメディアとの接触においては慎重であるべきである。

②大人は子どもとのコミュニケーションを充実させる必要があり、特に聞き上手で、褒めることを心がける必要がある。

③幼児期に虐待を受けた子どもは、自分の子どもを虐待する可能性が高い。従って、いわゆる虐待の連鎖を断ち切る必要がある。

④朝食をきちんと食べる習慣を身につけさせよう。

⑤住宅は、「広場がある低層住宅」がコミュニケーションのためには良い。

⑥子どもの学びからの逃走を抑制するには、教科書を魅力あるものにして、一学級の子どもの人数を減らし、優秀な教師の養成に努める必要がある。

⑦不登校児が出しているＳＯＳ信号を見落とさないことが重要。

⑧子どもにはできるだけ、具体的な実体験をさせるべきである。

⑨社会は、あらゆる計画・設計において子どもの存在を視野に入れることとし、憲章でそれを保証することも視野に入れるべきである。

― 目次 ―

緒言 …… １頁

I. こころの発達の問題…… ３頁
１．こころの座としての脳の発達…… ３頁
２．子どものこころの発達…… ８頁
３．身体の発育とこころの発達の関係…… １２頁

II. 親子関係の問題…… １９頁
１．親子関係の前提となる家庭の時代的変化…… １９頁
２．親子のコミュニケーション…… ２１頁
３．親の子育て意識…… ２４頁
４．子どもの躾…… ２９頁
５．児童虐待と非行…… ３３頁

III. 家庭における子どもの問題…… ３７頁
１．子どもの食生活…… ３８頁
２．子どもの遊びと住環境…… ４２頁

IV. 学校における子どもの問題…… ４６頁
１．子どもの学びの変化…… ４６頁
２．子どもの不登校…… ５０頁
３．子どもと教師の関係…… ５６頁
４．子どもの体験学習…… ６３頁

V. 子どもの自然的・社会的環境の問題…… ６８頁
１．子どもの成長過程における自然や地域社会の果たす役割…… ６９頁
２．自然や地域社会での子どもの遊び環境の変化とその国際比較… ７４頁
３．「子どもの遊ぶ権利」を保障する人権憲章…… ７７頁

結語…… ８２頁